

たら、ほめます。そして、その活動を価値づけるのです。そのためには、それぞれの活動では、「○○のような姿が表れるだろう（かもしれない）」と価値づけたい具体的な姿をあらかじめイメージしておくことが大切です。視点を決めて見るからこそ、はっきりと見取ることができるからです。

このような価値づけを繰り返すことにより、子どもたちに上記のような力を少しずつ育てていくことができます。

2 山口学級活動ネットワーク「冬の学習会」2010 感想から その1

去る1月10日、山口県セミナーパークにて、恒例の冬の学習会を実施しました。今回はのべ40名の参加者があり、特別活動の「不易と流行」に焦点を当てた学習会でした。参加者の皆さんからの感想を紹介します。

◇ワークショップでは、若い先生方と話し合い活動について語り合うことができ、有意義な時間が過ごせました。「このような勉強会に早く参加すればよかった」と若い先生方が言ってくださっていました。少しでもお役に立てたのかなと思って安心しています。

調査官からは、年頭に明日からの授業にまた元気が出る話を聴かせていただきました。いつ聴いても杉田先生の話は元気が出ます。

◇ワークショップでは少人数でいろいろな疑問をぶつけあったり、新しい発見があったりできるのではないのでしょうか。話し合う視点を明確にさせていただくと、さらに深まると思います。

調査官からは、また力がみなぎるメッセージをいただき、元気ががんばれます。コツコツと広めていきます。

◇基調提案では、新学習指導要領に見る新しい特別活動でどんなことに気をつければいいか明確にできました。また、今回の改訂をしっかりと根づけさせることが大切だとわかりました。

実践では具体的なものでわかりやすかった。とかく改訂の時期には「流行」ばかりが話題になるが、「不易」なことを大切にしていかなければならないことに気づけたのがよかった。

ワークショップでは、本来ならば現場でなすべき相談ができてよかったです。具体的な方向性が見えてきました。

調査官の話から、特活の流れが理解できたとともに、「不易」をまず見直して「流行」を考えることが大切だと感じました。

◇基調提案ではとてもわかりやすい提案でした。いただいた資料を使って、自校で全体研修をしたいと思います。

3人の先生方の実践は、現場ですぐに生かせるもので、大変刺激を受けました。調査官の話から来年度のテーマが決まりました。①「点」から「線」へ 「線」から「面」へ ②6年生がちゃんとした6年生になるようにする です。

◇「井戸端タイム」を通してビデオを作る実践がすばらしかった。真似したいと思った。福岡の先生からは、パワーのすごさ、特別活動のすばらしさがよかった。「こなす」から「つながり」をつくる特別活動の大切さがわかった。ワークショップでは、意見交換がとても参考になった。また、県によっていろいろな違いがあることがわかった。

◇調査官の話は、やる気の出る話でした。本年度より文部科学省指定の研究で特別活動に取り組んでいます。来年度の取組の参考になりました。

◇新旧の比較は何度聞いてもよいと思って勉強しました。わかりやすかったです。「学級会」の名称の復活は、個人的にうれしいです。学級会を1年から着実に積み重ねていけば、高学年でも話合いがじょうずにできるようになるだろうが、現状はそうではない。中村先生の井戸端タイムの方策は、積み重ねがない子どもでも実践できると思った。荒れている子どもたちはエネルギーがあるという。その方向は特活に向けられていたのかと改めて思った。ワークショップでは、自分と同じ考えの人がいると「これでいいんだ」と自信になるし、新しい考えに出会うと「へえ～なるほど」と新鮮な気持ちになれる。よい時間でした。調査官の話聴いて、もっと学校に本気で関わられる子が増えていかなくてはと思った。活力がないと嘆くだけでなく、教師の投げかけ、導き、計画次第で今の子どもたちも十分熱くなれると感じた。

◇ワークショップではいろいろな実践や情報がきけてよかった。テーマがもう少し明確だと話合いが絞れてよかったのでは。調査官の話は、いつもながら自分をふり返り、これからの実践を考える上で刺激を受けさせてもらいます。

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第86号は、1月下旬ごろ発行予定です。

次号も、引き続き「元気が出る学級づくり」についてお知らせします。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は264名と急増しました。これまで以上に内容を充実させていく

必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。
お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。

今回から、新コーナーとして「ネットワークで考える学級づくりコーナー～学級づくり・学級活動で困ったこんな場面Q&A」を始めました。

取り上げてもらいたいお題をお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp または sugi-net@jewel.ocn.ne.jp

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見は

sugi-net@c-able.ne.jp または sugi-net@jewel.ocn.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（下関市立名池小）

津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

西田智行（下関市立垢田小）

福永博一（萩市立椿西小）

=====